

(1)事業の概要等

事業番号	B0904-6
実施計画事業	○
実施計画事業以外の事業	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	高齢者がいきいきと輝くまちづくり事業				担当部	健康生きがい支え合い推進部					
	事業期間	令和2年度	～	令和4年度		担当課	健康生きがい推進課					
	小牧市まちづくり推進計画(R1年～R4年)	分野別計画編	基本 施策	9	展開 方向	4	担当係	健康政策係				
	予算区分	一般会計	款	3	項	2	目	1	大	8	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市高齢者保健福祉計画				事業種別	一般事業					
	目的・成果 (何のために、どのような成果を期待するか)	就労からボランティア活動に至るまでのきめ細かな情報を提供できる体制を整備するとともに、就労や地域活動を通じた生きがいづくりの支援をワンストップで行い、生涯現役活躍社会を目指す。										
	対象 (何・誰を対象に)	現役を退いた高齢者										
	内容・手段 (目的達成のためにどのような事業を実施したか)	<p>○令和3年度の実施内容</p> <p>・小牧市高齢者健康生きがい推進支援事業検討委員会の開催 愛知県モデル事業である本事業の進捗状況を確認するため、小牧市高齢者健康生きがい推進支援事業検討委員会を開催した。 30,800円(検討委員会委員報酬)</p> <p>※年2回の開催を予定していたが、緊急事態宣言が発令され、委員の参画が困難であったため、1回開催</p> <p>・ワンストップ窓口の開設、運営 月2回、就労(ハローワーク、シルバー人材センター)、地域活動(市民活動ネットワーク、ボランティアセンター、子育て世代包括支援センター)によるワンストップ相談窓口を開設した。その窓口等における相談内容、地域課題を踏まえ、各種事業、講座を開催した。(就労支援セミナー、就職相談会、退職後の生きがいづくりセミナー、地域活動(子ども食堂)スタートアップ講座)</p> <p>○経費 R3:4,076千円(決算) ・高齢者健康生きがい推進支援事業委託(社協):3,250千円 ・就労支援相談事業委託(シルバー):777千円 ・その他経費:49千円 R4:6,000千円(予算)</p>										
受益者負担	無											

(2)事業費

事業費	項目	単位等	H30	R1	R2	R3	R4	
			直接経費	財源	千円	-	-	0
直接経費	決算額	一般財源	千円	-	-	0	0	
		国・県支出金	千円	-	-	3,026	4,076	
		その他	千円	-	-	-	-	
	計(A)	千円	0	0	3,026	4,076		
	対前年比	%	-	-	-	34		
人件費	予算額	千円	-	-	6,000	6,000	6,000	
	正規職員	人	-	-	0.1	0.1		
	正規職員(平均賃金)	千円	-	-	749	749		
	その他職員	人	-	-	0	0		
	その他職員(時給×時間)	千円	-	-	0	0		
	計(B)	千円	-	-	749	749		
事業費合計(C=A+B)		千円	-	-	3,775	4,825		

(3)業績

展開方向における指標の推移			基本施策	9	展開方向		4
指標名	単位	方向性	基準値	R1	R2	R3	R4
1							
2							
3							

指標	指標ほか		単位		H30	R1	R2	R3	R4
	成果指標	シルバー人材センター 会員就業率	%	目標	90.0	90.0	90.0	89.4	89.7
				実績	89.7	89.2	81.2	85.0	
	生きがいを持って暮らしている65歳以上の市民の割合	%	目標	-	-	-	-	-	
			実績	-	76.6	77.8	-		
	活動指標	総合窓口 相談件数	件	目標	-	-	-	60	100
				実績	-	-	27	48	
	就労セミナー等 参加者数	人	目標	-	-	-	-	100	
			実績	-	-	-	58		
	単 事業 あたり 費	受益者数(a)		人	-	-	-	-	
受益者あたり事業費 (=C/a)		円	-	-	-	-			

(4)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	廃止⇒新規	現状の事業内容を廃止し、より効果的な事業内容を新たに実施すべきもの				
	事業の達成状況と課題	<p>関係機関・団体と連携し、本事業の意義と必要性を共有する中で、ワンストップ窓口を設置し、相談窓口を共同運用するほか、愛知県とタイアップした高齢者等を対象とした就労セミナーの開催、スマートフォン教室などを実施するなど新たな取り組みを実施できたところであるが、目標値に達成には至っていない。 要因としては、コロナ禍ということもあり、重症化のリスクが高いとされている高齢者を対象とする本事業について、積極的な周知を控えたこと、また、ワクティブこまきを起点とした取り組みについて、慎重に実施せざるを得ない状況もあったことによるものである。今後は、感染状況を注視しつつ、こうした状況の中でも事業をいかに展開していくかが課題である。</p>					
	今後の実施内容	<p>県モデル事業(100%県費)が令和4年度で終了となることから、本事業については、廃止する。 一方、本事業の必要性については、関係機関・団体、関係各課で共有をしていることから、令和5年度以降、他の特定財源を確保する中で、新たな事業としての展開を目指す。(現在、福祉部と協議中)</p>					
事務事業評価による額	千円		節	細節		細々節	